

○ 東南アジアにおけるアワの土名に関する二三の考察 (藤田安二) Yasuji FUJITA: Some considerations on the vernacular names of *Setaria italica* Beauv. in south-eastern Asia.

アワの原産地はインドのサバンナ地帯と考えられるが (Werth, E. 蕨内芳彦, 飯沼二郎訳, 農業文化の起源, p. 33, 130, 1968; 佐々木高明, 稲作以前, p. 103, 1971), すでに前報 (藤田安二, 植研, 27: 223, 1952; 29: 222, 1954; 香料, 22: 11, 1952) でも述べたように Ainu 語ではヒエを含めてアワを piyapa, kiyapa, biyaba などと言うが, 日本語ではもちろん awa で, これは台湾の Puyuma の dawa, zawa に連らなる。またフィリピンの Cebu Bisaya では daua; Panay Bisaya では daua; Tagalog では dawa; スンダ諸島中 Sunda では djawa wut, ジャバでも djawa wut, Madura では djhaba, Kangean では djhaba lek, バリ島では djawa semi, djawa wut; ボルネオの Dajak では djawé; スマトラ島の Batak では djabaikur, djaba uré, Maleid は djawa と言う。一方インドでは大麦を Sanskrit で yava, java と言い, イラン語, アフガニスタン語でも java と言い, リトアニア語では java をもつて一般穀類を示し, これらはいずれも同系に属することが明瞭である。すなわちこの java 系語は極めて広範囲にわたって分布し, 農耕文化最基層の言葉である。特にアイヌ語の piyapa, kiyapa, biyaba が一般に穀類を示す最古称の一つと考えられる yava に最も近く, このものに接頭語として pi, ki, bi などが附加した形をとることは甚だ興味あることで, これらのアイヌ語は穀類を示す最古の言葉としての yava 系語の周辺的残存として, その最古形を保存するものと考えられる。これもアイヌが南方系の古民族であることを示す一試料である。

このほか南方にはやや珍しいアワの土名の分布が二三見られる。その一つを今 Celebes 系語からとって batung 系アワ語と呼ぶことにするが, 次のような分布と多様な転化様式を示す (Heyne, K. Nut. Pl. Nedel. Ind. I, p. 236, 1927; 鹿野忠雄, 東南亜細亜民族学, 先史学研究, I, p. 283, 1946)。

小スンダ諸島 Solor: wetan. Roti: betek, feta. Maleid-Timor: botoh. Wettar: hetan. Tanimbar: botan. Kai: botan.

セレベスおよびその属島 Talaud: batung. Sangir: hetang. Alfuru-Minahassa: wetung, bote, wotei. Makassar: batang. Masenempulu: batang. Bugi: beteng, weteng. Buol: butomo.

モルッカ諸島 South Ceram: hoño. Alfuru-Ambon: atong, hetene, hetenu. Maleid-Ambon: hotong. Uliass: hotono. Ternate: futu. Tidore: futu. North Halmahera: botootene (Galela), botemè (Tobelo), botemē (Madole, Loda, Pagu); Bulu: bétèn (Kajeli), fetèn (Masarete).

このうち feta, futu などはこのもの単独では同系とは考えられない程の変化であ

るけれども, *batung* が *atong*, *hetong*, *hetene* となり, さらに *fetèn*, *futu* などとなったことが十分考えられる。South Ceram の *hoöno* は Uliass の *hotono* に続くものであろう。

この系統の土名はマレー, スマトラはもちろんジャバ, ボルネオ, フィリピンなどにも全く存在しないのに台湾の Rukai (Paiwan) では *buchun*, *butsuyu*; Tsou では *uvutsun* (四社蕃), *tonu* (北ツウ) となって存在する (堀川安市, 台湾における有用植物, p. 21, 1920; 帝国学士院, 高砂族慣習法語彙, p. 20, 38, 46, 92, 1941; 鹿野忠雄, 東南亜細亜民族学, 先史学研究 I, p. 285, 1946)。このうち Rukai の *buchun* は Makassar, Bugi の *batang*, *beteng*; Talaud の *batung* に最も近いことは注目すべきことで, また Tsou の *tonu* は Amboina の Alfuru 人の *hetenu*, Uliass 人の *hotono* と極めて近い。筆者はこの分布圏はインドネシア古民族の民族移動の最先端部にあたるものとする。

台湾における Yami はアワを *karai*, 熟蕃 Kuvanan では *rurai* と呼ぶが (奥田或, 岡田謙, 野村陽一郎, 太平洋協会編, 大南洋, p. 346, 1941; 鹿野忠雄, 東南亜細亜民族学, 先史学研究 I, p. 285, 1946), これはフィリピンの Sulu の Moro 族がアワを *turai* (Merrill, E. D., Enum. Phil. Flow. Pl. I, 73, 1925; 鹿野忠雄, 1946 前出), と呼ぶのと同系であり, これまた民族と文化との移動によるものである。なお台湾の Ami はアワを *havai* (帝国学士院, 高砂族慣習法語彙, p. 101, 1941; 鹿野忠雄, 前出, 1946, p. 285) と呼ぶが, これも恐らく *karai* と同系であろう。また Ami は酒造用のアワを特に *kirai* (鹿野忠雄, 前出 p. 115, 1946) と呼ぶのも注目すべき現象である。さらに台湾の Yami のアワの別名 *raot* がフィリピンのバタン諸島における *raot* (鹿野忠雄, 前出 p. 115, 284, 1946; II, p. 64, 1953) と同一なのはこれこそ確実に民族と文化との移動によるものである。

上述のように南方における *batung* 系言語層は *awa* 系言語層につぐ古い言語層であり, また民族層でもあることがわかる。

Besides the Dawa series of vernacular name of *Setaria italica*, the oldest layer of distribution in the World, there exists *Batung* series of vernacular name in Indonesia as the second layer of distribution.

Moreover, we can pick up other two series of minor distribution area, *Karai* and *Raot* which show the migration of people and culture clearly.

(大阪工業技術試験所精油研究室)